

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-12701

(P2010-12701A)

(43) 公開日 平成22年1月21日(2010.1.21)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 4 2 D 15/08 (2006.01)	B 4 2 D 15/08	B
B 6 5 D 27/00 (2006.01)	B 6 5 D 27/00	D
B 6 5 D 27/14 (2006.01)	B 6 5 D 27/14	

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2008-175133 (P2008-175133)	(71) 出願人	000002897
(22) 出願日	平成20年7月4日(2008.7.4)		大日本印刷株式会社
			東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
		(74) 代理人	100111659
			弁理士 金山 聡
		(74) 代理人	100135954
			弁理士 深町 圭子
		(74) 代理人	100119057
			弁理士 伊藤 英生
		(74) 代理人	100122529
			弁理士 藤枿 裕実
		(74) 代理人	100131369
			弁理士 後藤 直樹

最終頁に続く

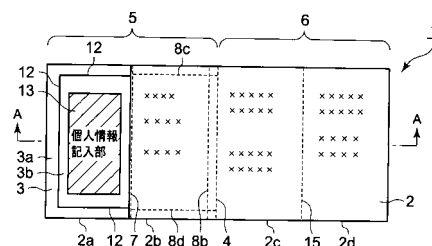
(54) 【発明の名称】 封書用紙付き帳票

(57) 【要約】

【課題】 返信用の封書を作成する際に糊付けの必要がなく、個人情報外部から認識できない状態で表示できるようにした封書用紙付き帳票を提供する。

【解決手段】 第1のシート状基材と重ねられた第2のシート状基材とを有し、第1のシート状基材は、切り取りミシンにより封書作成部と情報基材部とに区画され、封書作成部は、縦方向の折り畳み用ミシンが形成され、封書作成部の四周辺に沿って切り取りミシンが形成され、封書作成部の左側基材の表面には、粘着剤層領域と接着剤層領域とを有し、粘着剤層領域が、前記切り取りミシンと外周辺との間の領域に設けられ、接着剤層領域が、前記切り取りミシンの内側領域に設けられ、前記第2のシート状基材は、封書作成部の折り畳み用ミシンの左側基材の表面上に重ねられ粘着剤と剥離可能に貼付され、更に接着剤と剥離不能な状態で接着され、粘着剤層と接着剤層との境となる部分と重なる位置に切り込みが形成されている。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

横方向に長い矩形状を有する第 1 のシート状基材と、前記第 1 のシート状基材上の一部の領域に重ねられた矩形状を有する第 2 のシート状基材と、を有する封書用紙付き帳票であって、

前記第 1 のシート状基材は、該第 1 のシート状基材の短辺と平行に形成された切り取りミシンにより、封書作成部と情報基材部とに区画され、

前記封書作成部は、横幅方向の略中央部に縦方向の折り畳み用ミシンが形成され、更に前記封書作成部の四周辺に沿って、その四周辺の近傍に切り取りミシンが形成され、

前記封書作成部の前記折り畳み用ミシンで区画された左側基材の表面には、粘着剤が塗布された粘着剤層領域と、接着剤が塗布された接着剤層領域とを有し、前記粘着剤層領域が、前記切り取りミシンが形成されている部分から外周辺との間の領域に設けられ、前記接着剤層領域が、前記切り取りミシンが形成されている部分から内側領域に設けられ、

前記第 2 のシート状基材は、裏面に剥離剤層が設けられ、前記第 1 のシート状基材の前記封書作成部の前記折り畳み用ミシンで区画された左側基材の表面上に重ねられ、前記粘着剤と剥離可能に貼付され、更に前記接着剤と剥離不能な状態で接着され、また、前記粘着剤層と前記接着剤層との境となる部分と重なる位置に切り込みが形成されていることを特徴とする封書用紙付き帳票。

【請求項 2】

前記封書作成部には、予め該封書作成部で作成した封書を送付する宛先情報が表示されていることを特徴とする請求項 1 記載の封書用紙付き帳票。

【請求項 3】

前記第 2 のシート状基材の表面に、個人情報を入力するための個人情報記入部が設けられていることを特徴とする請求項 1 記載の封書用紙付き帳票。

【請求項 4】

前記第 2 のシート状基材の裏面、又は、前記第 1 のシート状基材の表面において前記第 2 のシート状基材が重なる領域に地紋印刷が施されていることを特徴とする請求項 1 記載の封書用紙付き帳票。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、返信用の封書を作成することができる封書作成部と、通知する情報が表示された情報基材部とを有する封書用紙付き帳票に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来、住所変更届、講座振替申し込み、アンケート等を郵送にて行なう場合には、封筒に返信用の葉書や返信用の封書用紙を書類とともに同封して顧客に送付し、それらを受け取った顧客が、返信用の葉書に必要事項を記入した後に返信したり、また必要事項を記入した書類を同封した封書に入れて返送するなどしている。

しかしながら、封筒に返信用の葉書や返信用の封書用紙を書類とともに同封した場合には、準備に手間がかかり、またコストもかかることから、返信用の葉書や返信用の封書用紙と、通知情報が表示された書類とを一体化させた申し込み用紙なども使用されている。

【0003】

例えば、入会申込書などの申込書を封書化させて郵送する場合には、図 6 に示すように、申込者側が不要部分の切り取りを行い、所定部分に糊付けを行なった後に巻き折りすることで、返信用の封書を作成することができるように構成された巻き折り加工用紙 20 などが知られている。

このような返信用の封書作成用紙を有する巻き折り用紙については、既に種々の仕様のものが知られている。（例えば、特許文献 1 ～ 4 参照）

10

20

30

40

50

【 0 0 0 4 】

【特許文献 1】特開 2 0 0 2 - 5 4 3 2 3 号公報

【特許文献 2】特開 2 0 0 3 - 2 0 0 6 8 0 号公報

【特許文献 3】特開 2 0 0 3 - 4 3 2 7 1 5 号公報

【特許文献 4】特開 2 0 0 6 - 4 4 0 8 0 号公報

【 0 0 0 5 】

しかしながら、従来の返信用の封書作成用紙を有する用紙は、返信用の封書を作成する際に、糊代部分に顧客が自分で糊付けを行わなければならないので不便であるという問題がある。

また、顧客が、返信用の封書作成用紙片に個人情報に直接記入した場合には、筆圧により用紙に凹凸が形成されたり、筆跡が封書の外側から透かして見えたりして、記入事項が認識しやすく、個人情報が漏洩する危険性が高いという問題がある。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【 0 0 0 6 】

そこで、本発明は、返信用の封書を作成する際に、糊代部分に顧客が自分で糊付けを行なう必要がなく、また、顧客が返信用の封書作成用紙片に記入した個人情報が、外部から認識できない状態で表示できるようにした封書用紙付き帳票を提供する。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 7 】

本発明の封書用紙付き帳票は、横方向に長い矩形状を有する第 1 のシート状基材と、前記第 1 のシート状基材上の一部の領域に重ねられた矩形状を有する第 2 のシート状基材と、を有する封書用紙付き帳票であって、前記第 1 のシート状基材は、該第 1 のシート状基材の短辺と平行に形成された切り取りミシンにより、封書作成部と情報基材部とに区画され、前記封書作成部は、横幅方向の略中央部に縦方向の折り畳み用ミシンが形成され、更に前記封書作成部の四周边に沿って、その四周边の近傍に切り取りミシンが形成され、前記封書作成部の前記折り畳み用ミシンで区画された左側基材の表面には、粘着剤が塗布された粘着剤層領域と、接着剤が塗布された接着剤層領域とを有し、前記粘着剤層領域が、前記切り取りミシンが形成されている部分から外周辺との間の領域に設けられ、前記接着剤層領域が、前記切り取りミシンが形成されている部分から内側領域に設けられ、前記第 2 のシート状基材は、裏面に剥離剤層が設けられ、前記第 1 のシート状基材の前記封書作成部の前記折り畳み用ミシンで区画された左側基材の表面上に重ねられ、前記粘着剤と剥離可能に貼付され、更に前記接着剤と剥離不能な状態で接着され、また、前記粘着剤層と前記接着剤層との境となる部分と重なる位置に切り込みが形成されていることを特徴とする。

【 0 0 0 8 】

また、本発明の封書用紙付き帳票は、前記封書作成部には、予め該封書作成部で作成した封書を送付する宛先情報が表示されていることを特徴とする。

【 0 0 0 9 】

更に、本発明の封書用紙付き帳票は、前記第 2 のシート状基材の表面に、個人情報を記入するための個人情報記入部が設けられていることを特徴とする。

【発明の効果】

【 0 0 1 0 】

本発明の封書用紙付き帳票は、封書を作成する際に、第 2 のシート状基材の切り込みから外側の部分を剥離させて、表出した粘着剤により 2 つ折りした基材を接着させて封書を作成することができるので、返信用の封書を作成する際に、糊代部分に顧客が自分で糊付けを行なう必要がなく、用意された粘着剤を利用して簡単に封書の作成を行なうことができるという効果がある。

【 0 0 1 1 】

また、本発明の封書用紙付き帳票は、第 2 のシート状基材の表面に個人情報を記入する

ための個人情報記入部が設けられているので、個人情報を記入した場合でも、筆圧により形成された凹凸を外部から認識することができず、更に、筆跡を封書の外側から透かして見た際にも、記入事項が認識しにくく、個人情報が漏洩される危険性が低いという効果がある。

【 0 0 1 2 】

更に、本発明の封書用紙付き帳票は、前記第 2 のシート状基材の裏面、又は、前記第 1 のシート状基材の表面において前記第 2 のシート状基材が重なる領域に地紋印刷が施されていることを特徴とする。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 3 】

10

以下、本発明の実施形態に係る封書用紙付き帳票を図面に基づいて詳細に説明する。

図 1 には、本発明の実施形態に係る封書用紙付き帳票の平面図が示され、図 2 には、図 1 の A - A 線断面図が示され、図 3 には、本発明の実施形態に係る封書用紙付き帳票において、第 1 のシート状基材から第 2 のシート状基材を分離された状態を示す平面図が示されている。

【 0 0 1 4 】

実施形態に係る封書用紙付き帳票 1 は、図 1 及び図 2 に示すように、横方向に長い矩形状を有する第 1 のシート状基材 2 と、前記第 1 のシート状基材 2 の上面の一部の領域に重ねられた矩形状を有する第 2 のシート状基材 3 と、を有している

第 1 のシート状基材 2 は、その第 1 のシート状基材 2 の短辺と平行に形成された切り取りミシン 4 により、封書作成部 5 と情報基材部 6 とに区画される。

20

【 0 0 1 5 】

図 3 に示すように、封書作成部 5 は、横幅方向の略中央部に縦方向の折り畳み用ミシン 7 が形成されている。

また、封書作成部 5 の四周辺に沿って、その四周辺の近傍に切り取りミシン 8 a , 8 b , 8 c , 8 d が形成されている。

封書作成部 5 の横幅方向の略中央部に形成された折り畳み用ミシン 7 で区画された左側基材片 2 a の表面には、粘着剤が塗布された粘着剤層 9 の領域と、接着剤が塗布された接着剤層 10 の領域とを有している。

【 0 0 1 6 】

30

そして、粘着剤が塗布された粘着剤層 9 の領域は、三方側に形成された切り取りミシン 8 a , 8 b , 8 c よりも外側の部分であり、また、接着剤が塗布された接着剤層 10 の領域は、三方側に形成された切り取りミシン 8 a , 8 b , 8 c よりも内側の部分である。

つまり、折り畳み用ミシン 7 で区画された左側基材片 2 a の三方側の外周縁に沿って、粘着剤が塗布された粘着剤層 9 の領域が設けられている。

また、封書作成部 5 の三方側に形成された切り取りミシン 8 a , 8 b , 8 c よりも内側に塗布された接着剤層 10 の領域の接着剤は、第 1 のシート状基材 2 の上面に重ねられた矩形状を有する第 2 のシート状基材 3 を剥離できない状態で接着させるために設けられているもので、接着力の強い接着剤が用いられる。

接着剤層 10 により、第 1 のシート状基材 2 と第 2 のシート状基材 3 とが接着されている。

40

【 0 0 1 7 】

第 2 のシート状基材 3 の裏面の所定領域には、剥離剤が塗布された剥離剤層 11 が設けられている。

第 2 のシート状基材 3 の裏面の剥離剤層 11 が設けられている領域は、第 1 のシート状基材上の方面に設けられた粘着剤層 9 と重なる領域であり、第 2 のシート状基材 3 の裏面に設けられた剥離剤層 11 により剥離可能な状態で貼付されている。

第 2 のシート状基材 3 には、第 1 のシート状基材の表面に設けられた粘着剤層 9 と接着剤層 10 との境となる部分と重なる位置に切り込み 12 が、外周辺に沿って三方向に形成されているので、第 2 のシート状基材 3 は、切り込み 12 が形成された部分から外側の部

50

分を剥離できるように構成されている。

【 0 0 1 8 】

第 1 のシート状基材 2 上に重ねられ接着された第 2 のシート状基材 3 は、第 2 のシート状基材 3 に形成された切り込み 1 2 により、その切り込み 1 2 が形成された外側の部分 3 a を、切り込み 1 2 が形成された内側の部分 3 b から、分離させて第 1 のシート状基材 2 上から剥離させ、第 1 のシート状基材 2 の上面に設けられた粘着剤層 9 を表出させることができる。

【 0 0 1 9 】

また、第 2 のシート状基材 3 の表面には、個人情報を入力するための個人情報記入部 1 3 が設けられており、氏名、住所、電話番号などの個人情報を記入するようになっている。

10

また、第 1 のシート状基材 2 の封書作成部 5 の第 2 のシート状基材が重ねられている基材片 2 a の裏面側には、予め該封書作成部 5 で作成した封書を送付する宛先情報 1 4 が表示されており、封書作成部 5 を 2 つ折りして作成した封書を直ぐに送付できるようになっている。

また、第 2 のシート状基材 3 の裏面、又は、第 1 のシート状基材 2 の表面において前記第 2 のシート状基材 3 が重なる領域に地紋印刷が施されている。

更に、第 1 のシート状基材 2 の封書作成部 5 の第 2 のシート状基材が重ねられていない基材片 2 b の裏面側にも、封書内に記載された個人情報を透かして見られることを防止するために、地紋印刷などのカムフラージュ用の印刷が施されている。

20

【 0 0 2 0 】

また、実施形態に係る封書用紙付き帳票 1 では、第 1 のシート状基材 2 に縦方向に形成された、折り畳み用ミシン 7 と、切り取りミシン 4 と、更に第 1 のシート状基材 2 の情報基材部 6 の横方向の中央部に形成された折り畳み用ミシン 1 5 と、の 3 つのミシンにより、第 1 のシート状基材 2 が、4 つの基材片 2 a , 2 b , 2 c , 2 d に分けられている構成の帳票が示されているが、第 1 のシート状基材 2 の情報基材部 6 は、必要に応じて、更に横方向の寸法を長く設けることで、複数の折り畳み用ミシンを形成することにより実施形態に示す封書用紙付き帳票よりも多くの基材片を接続するようにしてもよく、記載する通知情報の量などに応じて任意の幅寸法で設計することができる。

【 0 0 2 1 】

30

また、封書用紙付き帳票 1 は、顧客に渡す際には、第 1 のシート状基材 2 に縦方向に形成された、折り畳み用ミシン 7 と、切り取りミシン 4 と、折り畳み用ミシン 1 5 と、の 3 つのミシンから巻き折り状態にするなどして折り畳むことで、配布しやすい状態としておくことが好ましい。

【 0 0 2 2 】

次に、図 4 により、実施形態に係る封書用紙付き帳票 1 の使用方法を説明する。

封書用紙付き帳票 1 を利用して返信用の封書を作成する場合には、図 4 (a) に示すように、まず、切り取りミシン 4 から第 1 のシート状基材 2 を封書作成部 5 と情報基材部 6 とに切り離す。

次に、第 2 のシート状基材 3 の個人情報を記入するための個人情報記入部 1 3 に、必要な個人情報として、例えば、氏名、住所、電話番号などの個人情報などを記入する。

40

尚、封書作成部 5 と情報基材部 6 との切り離し作業と、個人情報記入部 1 3 への記入行為に関しては、どちらを先に行なってもかまわない。

【 0 0 2 3 】

次に、第 2 のシート状基材 3 に形成された切り込み 1 2 により、その切り込み 1 2 が形成された外側の部分 3 a を、第 1 のシート状基材 2 上から剥離させて、第 1 のシート状基材 2 上に設けられている粘着剤層 9 を表出させる。

その後、図 4 (b) に示すように、第 1 のシート状基材 2 の横幅方向の略中央部に形成された折り畳み用ミシン 7 から、第 1 のシート状基材 2 を 2 つに折り畳んで、粘着剤層 9 により 2 つに折り畳んだ第 1 のシート状基材 2 の外周縁部分を接着させて密封された封書

50

１６を作成させる。

そして、その封書１６をポストに投函するなどして送付する。

【００２４】

また、その封書１６の受取人は、切り取りマシン８ａ，８ｂ，８ｃ，８ｄから封書１６の三方向の端部を切り取ることで、図４（ｃ）に示すように、第１のシート状基材２の封書作成部５を見開き状態にすることで、第２のシート状基材３の個人情報記入部１３に記入された個人情報を見ることができる。

【００２５】

上記のように、本発明の実施形態に係る封書用紙付き帳票１は、用意された粘着剤を利用して簡単に封書の作成を行なうことができ、更に、個人情報を記入する個人情報記入部１３が、封書の外部となる用紙でなく、封書内に重ねられた用紙に設けられているので、個人情報を記入した場合でも、筆圧により形成された凹凸を外部から認識することができず、更に、筆跡を封書の外側から透かして見た際にも、記入事項が認識しにくく、個人情報が漏洩される危険性が低いように構成されている。

10

【図面の簡単な説明】

【００２６】

【図１】本発明の実施形態に係る封書用紙付き帳票の平面図である。

【図２】図１のＡ－Ａ線断面図である。

【図３】本発明の実施形態に係る封書用紙付き帳票において、第１のシート状基材から第２のシート状基材を分離された状態を示す平面図である。

20

【図４】本発明の実施形態に係る封書用紙付き帳票の使用方法を説明する図である。

【図５】従来の巻き折り用申込用紙を使用する図である。

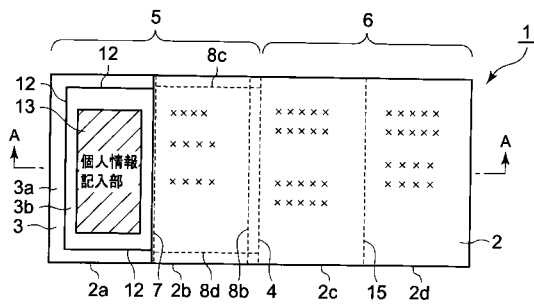
【符号の説明】

【００２７】

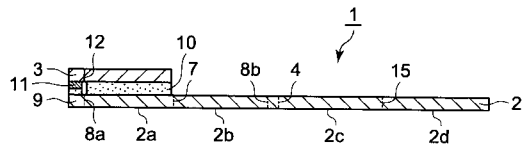
- １ 封書用紙付き帳票
- ２ 第１のシート状基材
- ３ 第２のシート状基材
- ４，８ａ，８ｂ，８ｃ，８ｄ 切り取りマシン
- ５ 封書作成部
- ６ 情報基材部
- ７，１５ 折り畳み用マシン
- ９ 粘着剤層
- １０ 接着剤層
- １１ 剥離剤層
- １２ 切り込み
- １３ 個人情報記入部
- ２０ 従来の巻き折り加工用紙

30

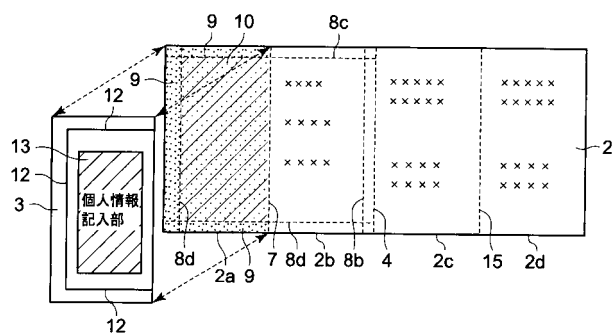
【図 1】



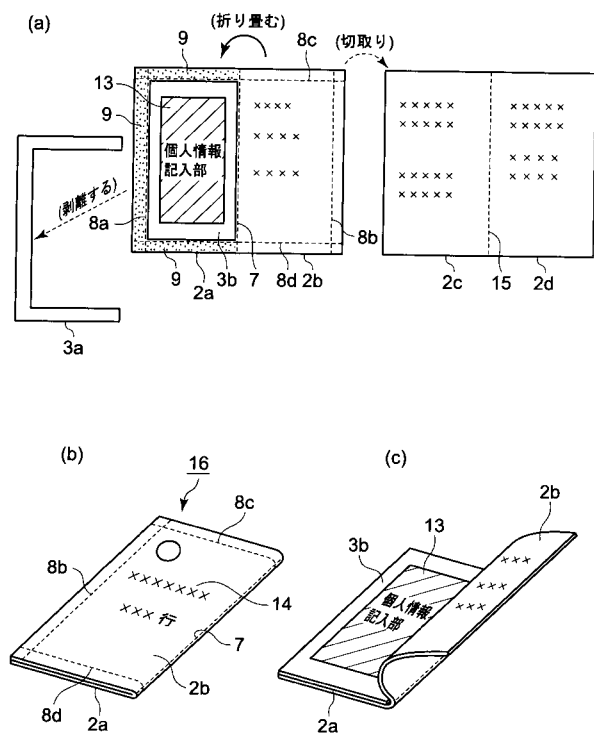
【図 2】



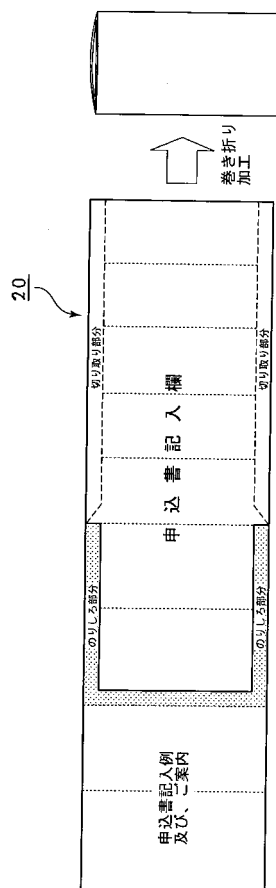
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

- (72)発明者 佐藤 潤
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 大日本印刷株式会社内
- (72)発明者 森田 進
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 大日本印刷株式会社内